

# ITPASS 数値計算実習課題 その1

板倉 統

担当情報実験機名：joho01

平成22年7月22日

## 問題1

慣性系において、質量  $m_1$  の中心星と質量  $m_2$  の惑星に対して成り立つ運動方程式を求め、 $\vec{r} = \vec{r}_2 - \vec{r}_1$  で表される相対ベクトル  $\vec{r}$  を用いて

$$\frac{d^2 \vec{r}}{dt^2} = -\frac{G(m_1 + m_2)}{r^3} \vec{r}$$

を導出する。

中心星と惑星に加わる力の大きさ  $F$  は、万有引力の法則より

$$F = \frac{Gm_1m_2}{r^2}$$

である。

$\vec{r}$  方向の単位ベクトルは  $\frac{1}{r}\vec{r}$  であることから、中心星の運動方程式は

$$m_1 \frac{d^2 \vec{r}_1}{dt^2} = F \frac{1}{r} \vec{r}$$

より、

$$m_1 \frac{d^2 \vec{r}_1}{dt^2} = \frac{Gm_1m_2}{|\vec{r}_2 - \vec{r}_1|^3} (\vec{r}_2 - \vec{r}_1)$$

である。

同様に、惑星の運動方程式は

$$m_2 \frac{d^2 \vec{r}_2}{dt^2} = -F \frac{1}{r} \vec{r}$$

より、

$$m_2 \frac{d^2 \vec{r}_2}{dt^2} = \frac{Gm_1 m_2}{|\vec{r}_1 - \vec{r}_2|^3} (\vec{r}_1 - \vec{r}_2)$$

である。

以上から、

$$\frac{d^2 \vec{r}_1}{dt^2} = \frac{Gm_2}{r^3} \vec{r} \quad (1)$$

$$\frac{d^2 \vec{r}_2}{dt^2} = -\frac{Gm_1}{r^3} \vec{r} \quad (2)$$

である。

ここで、

$$\frac{d^2 \vec{r}}{dt^2} = \frac{d^2}{dt^2} (\vec{r}_2 - \vec{r}_1) = \frac{d^2 \vec{r}_2}{dt^2} - \frac{d^2 \vec{r}_1}{dt^2}$$

に (1) (2) を代入すると

$$\frac{d^2 \vec{r}}{dt^2} = -\frac{G(m_1 + m_2)}{r^3} \vec{r}$$

となる。

これは  $\vec{r}$  の場所にある物体は  $-\vec{r}$  の方向に加速度  $\frac{G(m_1+m_2)}{r^2}$  で加速されることを表しており、中心星の方向に惑星が加速度  $\frac{G(m_1+m_2)}{r^2}$  で加速している様子が分かる。

## 問題 2

二体が同一平面上を運動していて、相対ベクトル  $\vec{r} = \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$  に対して速度を

$$\vec{v} \equiv \begin{pmatrix} v_x \\ v_y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{dx}{dt} \\ \frac{dy}{dt} \end{pmatrix}$$

と定義するとき、 $\frac{dv_x}{dt}$  と  $\frac{dv_y}{dt}$  を  $x, y$  を用いて表す。

$|\vec{r}| = \sqrt{x^2 + y^2}$  なので、

$$\frac{d\vec{v}}{dt} = \frac{d^2\vec{r}}{dt^2} = -\frac{G(m_1 + m_2)}{(x^2 + y^2)\sqrt{x^2 + y^2}} \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

である。よって、

$$\frac{dv_x}{dt} = \frac{d^2r_x}{dt^2} = -\frac{G(m_1 + m_2)x}{(x^2 + y^2)^{\frac{3}{2}}}$$

$$\frac{dv_y}{dt} = \frac{d^2r_y}{dt^2} = -\frac{G(m_1 + m_2)y}{(x^2 + y^2)^{\frac{3}{2}}}$$

である。